

灸道湖

第187号

2021年10月



七宝焼(1階病棟 遠藤昌樹さん制作)

七宝焼は、銅などの金属素地にガラス質の釉薬を盛り、750度～950度の高温で焼いたものです。当院では、1階病棟の患者さんを中心に七宝焼の制作活動を行っています。

もくじ

教育研修部コラム

“Reminds me of something important”… 2～3

新型コロナウイルス感染症に

対する看護師派遣活動を終えて …… 4

職場紹介 …… 5～6

「医療保育専門士」資格取得しました …… 6～7

新人紹介 …… 7

3階病棟院内行事

「出雲かんべの里がやってきた」…………… 8

2階病棟「学生まつり」…………… 9

開業医紹介…………… 10

地域医療連携室だより…………… 11

外来診療表…………… 12



～ 教育研修部 コラム ～

“Reminds me of something important.”

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

こんな世の中では誰もがしんどい思いをしているのは百も承知ですが、こんな世の中でこういう仕事をしていると身と心を削ってる（削られてる）感覚が続いています。「〇〇へ行きたい」「□□に会いたい」「△△したい」などなど。基本的に「たい」が100%で叶いません。これは皆さんも同じでしょう。まっしゃないと頭ではわかってはいるものの、真正面から向き合い続けると前述の削ってる（削られてる）感がどんよりと漂うのです。

それでも向き合わなくてはいけないし、頼まれごとはたくさんやってくるし、やんなきゃいけないことはたくさんあるし。いろんなバランスをとることが難しくなってきます。ああこれではいけない。机の上に散らかった資料や論文の山。手帳に過去の自分が未来の自分に指示をした仕事の山…。やっつけたりやっつけられたり。あーしんど、と思いつつ机の引き出しを開けると、とあるファイルが目にとまりました。落ち着いたら整理しようと思っていた自分の宝物のファイルです。

それは患者さんやご家族の方から頂いたお手紙のファイル。久しぶりに開いてみました。時系列にも何にもなっていない、読んでそのままファイルしたお手紙の山。久しぶりに少し目を通してみました。まだ何もできなかった研修医の頃にいただいたお手紙には励ましのお言葉や少しお褒めの言葉。ああこの時この手紙読んで嬉しかったなあとか、あん時しんどかったけど楽しかったなあとか…。こん

な感じでひとりタイムリープ劇場が始まりました…。

21年前の冬。私にとっては研修医の2年目の冬のことです。私は大学病院の救急部にいました。心疾患で救急搬送されたご高齢の女性。ICUに入室され、数日間手を尽くしましたが残念ながら亡くなりました。底冷えのする夜明け前に半袖白衣で外に出て寝台車をお見送りしたことを今でも鮮明に覚えています。私はまだ若く、お互いに頑張ったけど残念な結果となったことを悔いてしまい、その後しばらく落ち込んでいました。

少し立ち直り始めた頃に頂いたお手紙は息子さんからのお手紙でした。お母様が亡くなった後に私たちが焼香をさせていただいた姿、お見送りさせていただいた姿を“向こう側”から詳細に描写されていました。描写とともに本当に丁寧で勿体ないほどのお礼の言葉がたくさん書かれてあります。そして最後の一文。

「末筆乍ら、一人でも多くの病める人たちの救命とそして先生の御自愛と二つの矛盾したことをお祈りいたします。もう一度ほんとうに有難うございました。」

矛盾という言葉って多分ネガティブな意味合いが含有されているのに、こんなに素敵に使えるんですね。息子さんの人間性溢れるお言葉だからこそなのでしょう。今自分が削っ

てるとか、削られてるとかこう思っていることもなんだか21年前に見透かされているようで恥ずかしくなりました。そうなんです。その矛盾したことを自分はもっとやんないといけないわけです。まっもちろんバランスをとることは重要なのですが。久しぶりに身が引き締まりました。やっぱりこのファイルは宝物です。ありがとうございます。

話は変わって…

先日SNSで私が中学・高校6年間を過ごした母校が創立70周年を迎えて新校舎が完成したことを知りました。それはそれで時代の流れか、と思ったわけですが、自分にとっては切なくなるニュースも含まれていました。それは旧校舎の取り壊し。そしてそれとともに開校以来使ってきた「椅子と一体型の机（写真）」の廃棄処分でした。その机は母校まで自分で取りに来れる卒業生に限って無償で引き渡しをしてくれる、というお知らせが最後に書かれてありました。「あー行きたい」「自分が学んだ校舎を最後にこの目で見ておきたい」「机も持って帰りたい」…でもね、「たい」が100%叶わないのがこの世の中。とっても寂しくなりました。その母校は実家の近く。この世の中ですので実家にも帰れていません。無理だ。でも行きたい。いやだめだ。諦めよう、仕方ない。そう思ってたら、SNSで同級生が救いの手を差し伸べてくれました。その彼も机を引き取って自宅に持って帰ったとのこと。「お前が欲しいなら取りに行って送ってやるぞ!」と言ってくれました。あー持つべきものはやっぱり友達ですね（笑）。二つ返事で引き受けてくれてその日のうちに我が家に送ってくれました。翌日到着したのが写真の机、というわけです。

座ってみました。見えてるものは自宅の見慣れた景色ですが、前述のお手紙の時のタイムリープ劇場が瞬間的にやってきました。こ

こに座って勉強したこと。あん時に夢見ていたこと。考えていたこと。楽しかった思い出などなど。超高速パラパラ漫画のように脳内を通り過ぎて行った不思議な感覚。数秒間ぼんやりしただけで何だかやなものがアンインストールされて、フレッシュな気持ちがインストールされたような気持ちになりました。

まだまだ「たい」が叶わない世の中は続きます。体の健康も重要ながやはり心の健康もやはり相当大事だなと強く思う日々です。とりあえず終わるまで頑張ってみようと思います。終わったらまた頑張れそうだし。多分「たい」が叶うことだろうし。

皆様どうかご自愛ください。

教育研修部は皆様のご健康をお祈りしております。



新型コロナウイルス感染症に 対する看護師派遣活動を終えて



1階病棟 副看護師長 濱 厚志

昨年来、日本でも新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、未だ収束の目処が立っていません。今年3月頃から京阪神地域では、第4波の到来に伴い新規陽性者数が急増し、医療体制が逼迫していました。このような中、厚生労働省から要請を受け、新型コロナウイルス感染症対応のため、派遣看護師として1ヶ月間、兵庫県神戸市にある医療機関の重症コロナ感染症病棟で勤務して参りました。



↑ 仮設病棟

要請を受けた当初、「自分も感染してしまうのではないか」といった不安がありました、しかし、医療体制が逼迫する中で「何か自分にも力になれることはないか」という使命感が勝り、要請を快諾致しました。

派遣先の医療機関は、16床の重症病床を有していました。派遣当初、病床利用率は90%程度で、ほぼすべての方が気管挿管中で人工呼吸器が装着されていました。業務は、患者さんの病態把握、リハビリテーションや清潔のケアの実施、検査や処置の介助などでした。普段の救急・集中治療のケアの緊張感に加え、感染防御を行いながらの業務であったため疲労感はずっと何倍にも感じました。そのような環境の中で印象的であったのが、スタッフの皆様が非常にきめ細やかなケアをされていたことです。酸素化を改善しようと医師と協力しながら積極的に腹臥位療法を行い、16時間続く腹臥位療法の中で褥瘡を予防しようと頻りに枕を調整されていたこと。筋力低下を最小限にするため可能な限り早期から離床をされていたこと。面会制限の中で、家族の方への細やかな情報提供をされていたことなどは印象的でした。このようなケアを派遣先のスタッフの方と



↑ 仮設病棟の中の様子

行う中で、決して諦めず最善を尽くそうとする姿勢、過酷な環境にもかかわらず多職種が冷静にコミュニケーションをとり、円滑なチーム医療を実践されていたことは非常に感銘を受けました。このような経験は非常に貴重であり、今後の看護師人生に活かしていければと思いました。最後に、派遣中、様々なご支援を頂いた松江医療センターの皆様へ感謝を申し上げます。

地域医療連携室の業務を紹介します！

医療社会事業専門員 松本 昌広

地域医療連携室には、室長（古和副院長）、地域医療連携係長（田村看護師長）、看護師5名（前方連携2名、後方連携3名）、医事専門職、医療社会事業専門員2名（社会福祉士）が所属しています。

地域医療連携室は、地域の医療・福祉・介護機関との連携業務、患者さんや家族さんの相談業務を担当しています。では、簡単ですが担当ごとの業務をご紹介します！

前方連携

病院・開業医の先生からご紹介の患者さんの外来予約、診療情報の管理を担当
外来受診で入院が決まった患者さんと面談し、療養環境を病棟と共有する担当

後方連携

患者さん、家族さん、ケアマネジャー、訪問看護、介護施設との相談や調整を担当
退院支援計画に基づき、退院後の療養環境の調整を担当
在宅酸素など医療処置が必要な退院患者さんのご自宅を訪問する療養指導も担当

社会福祉士

転院、医療費相談、虐待、身寄りがない人への支援、退院支援などを担当
病院・開業医の先生からご紹介の患者さんの外来予約を担当

医事専門職

社会福祉士の相談業務の管理、苦情受付担当

地域医療連携係長

地域医療連携室長の指導のもと、上記の業務管理を担当

地域医療連携室長

地域医療連携室の業務の総括

「当院の外来予約→入院前の面談→退院後の療養環境の相談→退院後にご自宅に訪問して療養指導」。入院前から退院後までの支援を担当しています！

以上、簡単ですがご紹介でした。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



私が勤務する医療安全管理室をご紹介します。

医療安全管理係長 仲野美由紀

私は医療安全管理係長となり2年目になります。

医療安全管理室には室長である副院長、専従の医療安全管理係長、事務助手の3名が所属しています。医療安全管理室は組織横断的に医療安全に関する現場の情報収集や実態調査、院内ラウンド、マニュアルの見直しや作成、インシデント報告書の集計や分析、医療安全情報の周知、研修実施、医療事故発生時の対応などを行っています。

また各部署の医療安全推進担当者と共に、現場の問題に対しより具体的な解決策を考案したり、小グループ活動として転倒転落や患者誤認対策ラウンドによる現状確認とフィードバック、医療安全管理マニュアルの見直しを行ったりしています。

他には地域の他病院および機構病院と医療安全相互チェックを行い、医療安全対策についてお互いに共有しながら自施設の対策に活かしています。

政策医療分野における呼吸器疾患とセーフティーネット分野の診療を行う松江医療センターは、人工呼吸器を使用している患者さんが約90名あり、昨年度インシデント報告2278件の3.7%が人工呼吸器に関する報告でした。人工呼吸器に関することは生命に関わる重大なことと院内で共通認識を持ち、職員が一丸となって要因分析や対策の実行に取り組んでいます。また転倒転落事例、患者誤認に関する事例にも特に注視し、あらゆる視点で発生要因を探り再発防止策につなげられるよう心掛けています。2019年度から始めた災害対応シミュレーションや、部署毎で行うKYT（危険予知トレーニング）は、「みんなで取り組む医療安全」として進めていきたいと考えています。

医療安全は病院内すべての部署、場面に関わるため、大きな責任を伴う事柄です。その責任の大きさを日々感じつつも、さらに研鑽を積み、安全な医療サービス提供に向け活動していきたいと思えます。



療育
指導室

「医療保育専門士」資格取得しました

療育指導室 保育士 越野 幸子



私はチーム医療に貢献できる保育士を目指し、「医療保育専門士」の資格を取得しました。チーム医療とは、担当分野の異なる医療従事者が対等な立場で連携し、患者さん中心の医療を実現しようと協力する試みのことで、患者さんもチームの一員として捉えられています。医師の指示に加え、医療

従事者がそれぞれの立場からの提言や提案を共有し、患者さんにとってよりよい医療を提供することを目的としています。保育士は医療的ケアをすることはできませんが、遊びや行事を通してストレスの軽減や、患者さんの精神的安定をサポートすることができます。しかし、まだまだ保育士の支援に対する理解は浅く、病棟において保育士の必要性が理解されているとは言い難いのが現状です。配置人数が少ない職種であるため、今まで以上に保育士の専門的な視点から積極的に意見を発信する体制作りをしていく必要があると感じます。

病院は医療が最優先ですが、それだけでは患者さんの QOL の向上は望めません。患者さんとじっくり向き合い、福祉職である私たちだからできる、私たちにしかできない患者支援を行うことで、医師や看護師とは違う視点で患者さんを支えることができると考えます。例えば、当院の障害福祉サービスを利用される方に必要な個別支援計画を立てる際に、患者さんとの意思疎通が困難な場合や、趣味がなく要望がはっきりしない場合、人と距離をとろうとする方の場合は、患者さん自身も自分のニーズがつかめず苦しい精神状態と言えます。そんな時こそ私たち福祉職が患者さんに寄り添い、向き合い、潜在化しているニーズと一緒に見つけ出せるように働きかけることができます。また、患者さんが受けられる医療というサービスに対して、説明を受ける権利、医療方針を選択する権利が主張されるようになり、日頃からご家族との良好な信頼関係を築いておく必要があります。このようなことから、医療保育専門士は患者さんの心理的支援、日常生活支援、成長・発達の支援、家族支援、環境整備など多面的に患者さんをサポートしていく職種と言えます。保育の専門的知識を深めていくことはもちろん、日々進歩し続ける医療の知識を身につけるため、今後も積極的に研修に参加していきたいと思えます。



新 人 紹 介

看護師になって

2階病棟 津田明咲希



私は令和3年4月より松江医療センターに入職し、筋ジストロフィーと重症心身障がい児（者）の混合病棟で働いています。私は病棟に配属された当初、患者さんのニーズを活かした個別性のある看護を行うことを目標にしていました。しかし、患者さんとコミュニケーションを図ることが難しく、患者さんはどういう思いなのか、ニーズは何なのかを知ることができず、自分の目指す看護に近づけないと戸惑いがありました。そんな中、まずは患者さんが安全・安楽に毎日がすごせるようサポートしていくことが大切だと、先輩からアドバイスをもらいました。言語的なコミュニケーションが図れなくても、顔色やモニター上の数値、においや音など患者さんが発しているシグナルを、自分の五感を使って気づけることから始めていこうと思えるようになりました。まだ業務に慣れず、知識や技術も未熟ですが、一人一人の患者さんと向き合い、気持ちを汲み取っていけるように患者さんと向き合っていこうと思えます。

松江医療センターの理念にもある通り、患者さんの身になって考え、「患者さんの役に立ちたい」という思いを大切に、真心と思いやりを持って看護を行っていこうと思えます。

「出雲かんべの里がやってきた」

児童指導員 安達 浩史



7月29日(木)、8月5日(木)、9月2日(木)の3回、院内行事(院外行事振替)「出張!! 出雲かんべの里がやってきた」を実施しました。今回の行事では感染対策を徹底して、出雲かんべの里 民話館より、二人の語り部さんに来ていただきました。各回、9名~10名の利用者さんと職員が療育訓練室に集まり、出雲かんべの里さんからお借りした、蓑(ミノ)、笠、灯ろうなどを飾りました。また、今回のために利用者さんと一緒に作った装飾で出雲かんべの里の雰囲気近づけるようにしました。

司会と利用者さんによる始めの挨拶の後、マイクを語り部さんにお渡しし、「桃太郎」などの定番の昔話や、「へコキ嫁」「クラゲの使い」と言った初めて聞く面白い昔話を4話から5話していただきました。「とんとん昔…」で始まる出雲弁の温かいお話に、利用者さんの目もパッチリと開き、お話の世界に引き込まれ楽しんでおられました。また、語り部さんの「てーんぐ(天狗)、てーんぐ(天狗)、めってんぐ」の掛け声とともに、職員による太鼓と踊りを披露し、笑い?をさそう場面もありました。



次に、お部屋を暗くして、影絵による「猿かに合戦」をしていただきました。カセットデッキによる音楽や、オーバーヘッドを使ったカラーの影絵に、利用者さんも時々声を出して喜ばれていました。参加した職員からも「癒された」、「子どもの頃にもどったようだ」「懐かしかった」などの言葉がありました。

今回、出雲かんべの里へ行くことができませんでしたが、慣れ親しんだ出雲弁によるお話を聞くことができ、楽しい時間を過ごすことができました。



2階病棟「学生祭り」

保育士 越野 幸子

8月24日(火)、2階病棟で学生祭りを行いました。この日は東京パラリンピックの開会式の日…ということで、「みんなが主役のパラリンピック」をテーマに、学生全員がデイルームに集まり、とても賑やかな行事になりました。学生は3チームに分かれ、それぞれ「上乃木 JAPAN」「松江 JAPAN」「緑が丘 JAPAN」という素敵なチーム名でメダル獲得を目指します。第1種目「オリンピッククイズ」では、オリンピックにちなんだ難しい問題が4

問出題されました。おもしろい解答も飛び出し、楽しみながらオリンピックの知識を深めました。第2種目はパラリンピックの正式種目である「ボッチャ」を公式ルールで楽しみました。それ



ぞれのチームが作戦を立てながら真剣にボールを転がしたり、お互いに応援する姿も見られ、とても素敵でした。第3種目「歌でつながる仲間の輪」では、嵐の「カイト」という曲を全員で合奏・合唱しました。全員で大きな輪をつくり、学生、養護学校の先生方、職員が歌でひとつになり、感動的なフィナーレとなりました。コロナ禍で楽しみが制限される中、ひと夏の思い出に残る行事になりました。



開業医紹介コーナー

病病・病診連携 No.34

医療法人つたや会 在宅診療所まつえ
坂口 泰子 先生



2018年10月より在宅支援診療所を開院しております。

松江医療センター様には神経難病、呼吸器疾患等の患者を多くご紹介いただき、この場を借りて感謝申し上げます。

当院の診療体制について少しご紹介いたします。当院ではほぼ全ての診療の場が患者または施設内です。因みに高齢者施設等の嘱託医はしておりません。2021年9月現在、医師1名、看護師3名、事務3名、相談員1名が在籍し、年間365日24時間対応で診療を行っております。

夜間、休日でも医師だけでなく看護師と事務も24時間体制で対応し、往診時も一緒に行動しています。看護師は訪問看護もしており、緩和ケアや看取りなど密なケアを必要とする患者の看護も行っています。また、各訪問看護ステーションとの連携でも診療を行っています。

ご紹介いただいた患者の状態変化時には貴院での御加療をお願いすることもあり、「少しでも長く、安全な」在宅療養支援を目指しておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

診療日	日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00 (訪問診療)	×	○	○	○	×	○	○
12:00~13:00 (外来)	×	○	○	○	×	○	○
13:00~17:00 (訪問診療)	×	○	○	○	×	○	○

休診日=木・日・祝祭日、年末年始、お盆

※ 緊急往診等で外来対応できない場合があります。
※ 当院かかりつけ患者=24時間365日の緊急対応可能



医療法人つたや会 在宅診療所まつえ

〒690-0047 島根県松江市嫁島町88番地1 (嫁島町の『セガワールド』の前)
電話:0852-67-6780 FAX:0852-67-6760

地域医療連携室だより

第 44 号



おしらせ

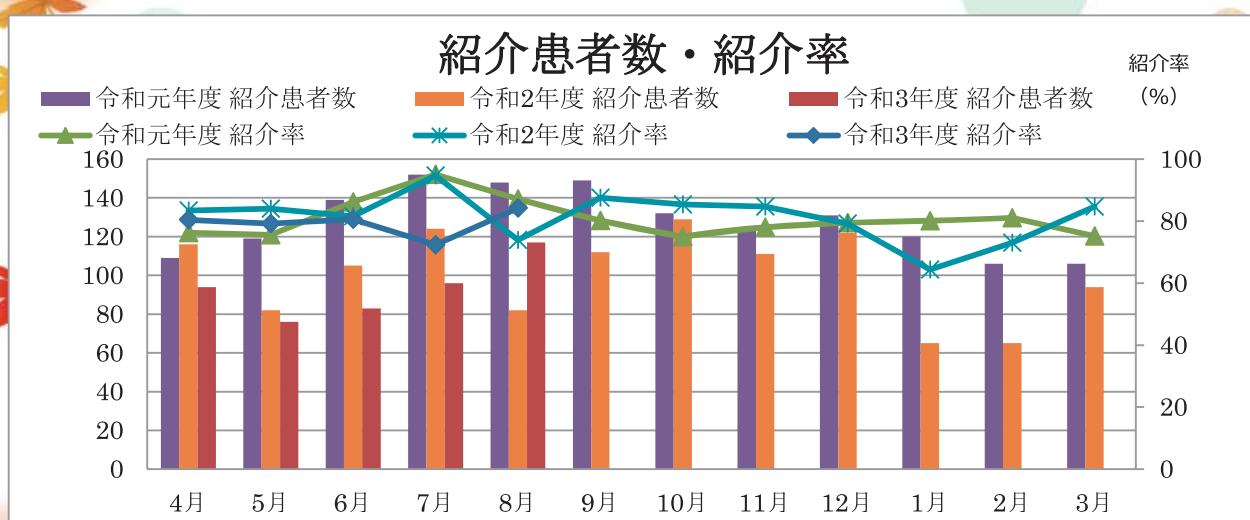
2021 年 10 月

【時間外の対応について】

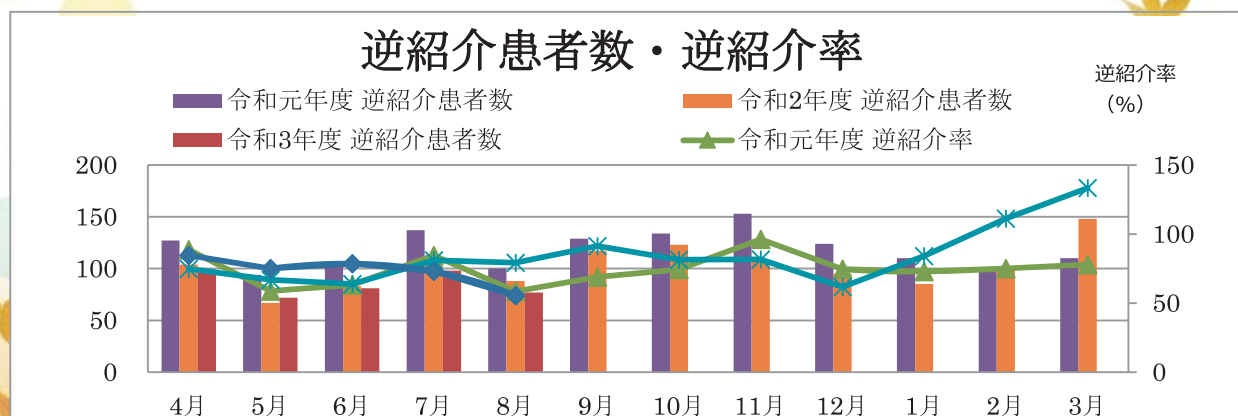
呼吸器疾患で緊急にご紹介いただく患者さまにつきましては 24 時間対応させていただいております。
夜間・休日に関わらず下記にご連絡ください。

☎0852-21-6131（代表）または 0852-24-7671（地連）

1. 紹介患者数・紹介率 / 逆紹介患者数・逆紹介率の推移



2. 退院支援データ 毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています



R3 年 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
退院支援患者	131	131	162	173	128	141	151	174
退院先	在宅	74	70	81	109	81	76	92
	施設	1	1	0	3	4	4	5
	病院	2	3	3	7	9	0	3

※逆紹介率とは、当院から開業医さんや他の病院へ紹介させていただいた患者さんの割合
 $逆紹介率 = 逆紹介患者数 \div 初診患者数$ (休日、夜間の救急患者を除く)

外来診療表

お気軽にご相談下さい

令和3年4月22日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科		岩本(初)	西川(初)	木村(初)	門脇(初)	池田(初)	【呼吸器内科】 井岸 正 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 岩本 信一 西川恵美子 坪内 佑介 【院長】呼吸器一般 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
		西川	小林	岩本		木村	
		井岸	門脇	池田	坪内	小林	
循環器内科						生馬	【循環器内科】 生馬 勲 循環器一般
脳神経内科		中島 (完全予約制)	古和	深田	足立	交替制	【脳神経内科】 中島 健二 古和 久典 足立 芳樹 中野 俊也 細田 義人 下山 良二 深田 育代 【名誉院長】脳神経内科 (完全予約制) 【副院長】脳神経内科 【臨床研究部長】脳神経内科 【診療部長】脳神経内科 脳神経内科・リハビリテーション 脳神経内科 脳神経内科
		中野	下山		細田		
呼吸器外科		荒木		目次		荒木	【呼吸器外科】 荒木 邦夫 目次 裕之 【診療部長】呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
小児科	発達 専門外来	久保田 (予約)	齋田 (予約)	齋田 松村 (予約)	久保田 (予約)	齋田 (予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 松村 涉 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害
	予防接種		(予約)				
麻酔科	腰痛外来			西村 (予約)			【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域
特	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 松村 涉 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害
	睡眠時無 呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)		
	息切れ 外来		呼吸器内科 池田(予約)				
殊	喘息 アレルギー外来					池田 (予約)	【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域
	咳嗽外来					池田 (予約)	
	禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)		
外	アスベスト 外来		(予約)	(予約)	(予約)		診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30 独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661
	もの忘れ外来			深田			
その他	セカンド オピニオン外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

特 殊 外 来	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～17:00 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,500円
	睡眠時無呼吸外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息アレルギー外来	診療日：毎週金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10:00～12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30～11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 9:00～12:00 神経難病外来
	もの忘れ外来	診療日：毎週水曜日 9:00～12:00 内容と特色：もの忘れの診断と治療を行います。
	小児科発達専門外来	診療日：毎週月～金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療・療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかダイケアでの遊戯療法も行っています。
腰痛外来	診療日：毎週水曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：主にぎっくり腰などの痛みの治療を行っています。薬物療法や神経ブロックなどで痛みの緩和を目指します。	
セカンドオピニオン外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・脳神経内科・小児科(筋ジストロフィー)の専門医(医長)が担当いたします。	